

回数	授業項目	授業内容
第1回	データサイエンスとは	授業概要と評価方法、大学での学びとデータサイエンス
第2回	ビッグデータ	次世代社会を支えるビッグデータとデータサイエンス
第3回	データマイニング	データ解析とデータベース
第4回	ビジネス活用事例	データ解析の目的と活用事例
第5回	ICT～ハードウェア	ハードウェアとデータ表現の仕組み
第6回	ICT～ソフトウェア	プログラム内蔵方式とクラウドコンピューティング
第7回	プログラミング	アルゴリズムとプログラミング言語python
第8回	統計～統計解析	基本統計量とクロス集計

第9回	統計～多変量解析 1	相関分析と回帰分析
第10回	統計～多変量解析2	因子分析と統計的仮説検定
第11回	AI～機械学習	AI技術の概要と機械学習
第12回	AI～ディープラーニング	機械学習とディープラーニング
第13回	AI～自然言語処理	自然言語とテキストマイニング
第14回	ふり回り	各回授業内容のふり回りと要点の確認
第15回	総括	レポートの返却・解説と総括

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3A3003302	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	情報概論（Introduction to Information Processing）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	1 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	金曜1限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	現代社会に不可欠なコンピュータやコンピュータネットワークシステム、さらにはインターネット上で、情報がどのように扱われ、処理されるのかについて解説します。その上で、急速に進むICTの現況と重要性についても解説します。これは将来どのような進路を選ぶにせよ必要な知識です。授業のねらいは、地域社会の発展に貢献できる力として、高度情報社会に対応できる情報リテラシだけでなく、急速に進むICTの現況における種々のトピックについての知識を深めることです（DP3,4・CP3,4）。到達目標は、地域社会に貢献するために、高度情報社会に対応できる情報リテラシを身につけることです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。小テストは実施後に正解を示し、解説することでフィードバックを行います。また、随時、内容を深めるための課題を出しますが、次の授業で解説を行うことでフィードバックします。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習：毎回、授業の途中で小さな問題を3～5問程度課します。学生同士、相互に相談してよい。ほとんどの学生が解答を終えた時点で、正解を示し、その解説を行います。間違っていた場合は訂正を行って、授業終了後に提出して下さい。これにより、新しく得られた知識や考え方を確かなものにすることができます。
⑦ 成績評価方法と割合	平常点：授業内小テスト（毎回）40% 課題10% 確認試験：50%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	コンピュータ・システムや、多様な情報の表現方法と処理方法、コンピュータ・ネットワークシステムやインターネットについて説明でき、さらに現在のICTに関するトピック（クラウド・コンピューティング、ビッグデータ、ソーシャルメディア、IoT、AI）について説明できる。
優（A）	コンピュータ・システムや、多様な情報の表現方法と処理方法について説明でき、コンピュータ・ネットワークシステムやインターネットについても説明できる。
良（B）	コンピュータ・システムや、多様な情報（数値、文字、画像、音声）の表現方法と処理方法について説明できる。
可（C）	コンピュータ・システム（ハードウェア、ソフトウェア）について説明できる。
不可	コンピュータ・システム（ハードウェア、ソフトウェア）について説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書を事前に読み、用語を理解しておくこと（90分）。日頃からIT関連のニュースに注意するようにしてください（30分）。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解するように努め、必ずその日のうちに復習して、用語とその意味を定着させるようにしてください（60分）。
教科書、ISBN	草薙信照著『コンピュータと情報システム 第2版』サイエンス社 2015年 ISBN:978-4781913698
参考文献	適宜、プリントを配布します。

④ 回数	授業項目 ③	授業内容
第1回	情報技術と社会、コンピュータの基礎知識	情報技術が社会に与える影響（Xテック、Society5.0等）、コンピュータの歴史、種類、基本構成
第2回	情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算
第3回	ハードウェア（1）	中央処理装置
第4回	ハードウェア（2）	周辺処理装置、インターフェイス
第5回	ソフトウェア	基本ソフト、応用ソフト、プログラム言語
第6回	情報の表現（1）	数値情報、2進数と10進数の相互変換、数値情報の演算
第7回	情報の表現（2）	テキスト情報
第8回	情報の表現（3）	画像情報、音声情報、情報圧縮と解凍方法
第9回	コンピュータネットワークシステム	LAN、WAN、通信回線

第10回	インターネット（１）	インターネットのしくみと利用方法
第11回	インターネット（２）	インターネットにおけるセキュリティと情報倫理
第12回	ICTにおける現在の動向（１）	モバイル、ソーシャルメディア、IoT、ビッグデータ
第13回	ICTにおける現在の動向（２）	AI、ロボティクス
第14回	ICTにおける現在の動向（３）、 情報リテラシ	5G、量子コンピュータ 情報リテラシ、デジタルディバイド 総復習
第15回	総括	確認試験とその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）	選択科目	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 商業の関係科目		

授業番号	B2B2013901	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	情報セキュリティ論（cyber security）		
⑥ 担当教員（英語表記）	森島 隆晴（Takaharu Morishima）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	集中講義

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP/CPに於ける位置づけ	インターネット利用の急激な普及とともに、ITリスクから個人や企業・社会を守るための情報セキュリティが大きな課題となっています。授業のねらいは、ITリスクと情報セキュリティ対策を学ぶことで、良識ある社会人としての一般的教養を身に付けることです。到達目標は、個人や企業の立場からITリスクに対する危機意識と情報セキュリティ対策に関する知識や考え方を説明できることです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	授業の初めに前回提出してもらったワークシートを返却し、要約および質問と回答をフィードバックします。PowerPointを用いた講義を聞いて講義資料の空欄にキーワード等をメモしてください。毎回、講義の後にグループディスカッション&発表とワークシートの記入を行います。グループディスカッションや発表でも学生相互にフィードバックし合います。レポート課題も返却し、解説などでフィードバックします。
アクティブ・ラーニングの手法	毎回、授業内容の要約作成を個人作業で、ピアレビューと調べ学習や情報共有をグループワークで、最後に授業のふり返りを行います。
⑦ 成績評価方法と割合	毎回の予習復習確認テストで15%、ワークシートの論述内容（要約[理解度]・調べ学習[思考力]・ふり返り[態度]）で40%、レポート課題(総合的説明力)で45%の割合で評価します。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	ITリスクと情報セキュリティ対策、制度的仕組みおよび対策技術の二つ以上を正しく説明できる。
優（A）	ITリスクと情報セキュリティ対策、制度的仕組みおよび対策技術の一つ以上を正しく説明できる。
良（B）	ITリスクと情報セキュリティ対策および制度的仕組みの概要を正しく説明できる。
可（C）	ITリスクと情報セキュリティ対策を概ね説明できる。
不可	ITリスクと情報セキュリティ対策を説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	授業中のディスカッション活性化のために、資料を事前に複数回読み(30分以上)、不明な用語などを確認(60分以上)して授業に臨んでください。復習として、配布資料を読み返し(40分以上)、基本的概念や考え方、実例を文章にまとめ(50分以上)、説明できるようにしておいてください。
教科書、ISBN	教科書は使いません。代わりに資料を配布します。
参考文献	松本隆明、岡本龍明(2000)『情報セキュリティ技術』電気通信協会 片岡信弘 他(2011)『インターネットビジネス概論』共立出版

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	情報セキュリティとは	授業概要と評価方法、情報セキュリティの定義とITリスクの分類
第2回	意図的脅威の種類	攻撃方法と影響度、個人情報流出事件に見る脅威
第3回	情報セキュリティ対策	対策の必要性、脅威の種類とその対策技術
第4回	アクセス管理	ユーザー認証とアクセス制御、ユーザー認証技術
第5回	アクセス制御技術	アクセス制御の分類、OSのアクセス制御機能
第6回	ファイアウォール技術	ファイアウォールの仕組み、ファイアウォールの配置
第7回	暗号技術	サイファ暗号の仕組み、共通鍵暗号と公開鍵暗号
第8回	デジタル署名	本人認証の仕組み、メッセージ認証の仕組み
第9回	マルウェア	マルウェアの種類、マルウェア対策
第10回	電子商取引のセキュリティ	電子商取引の仕組み、電子商取引のセキュリティ要件
第11回	ICカードのセキュリティ	ICカードの種類と仕組み、ICカードのセキュリティ技術
第12回	情報セキュリティと制度	セキュリティ技術と制度、制度のジレンマ
第13回	著作権と保護技術	著作権法、電子透かし技術
第14回	ふり返り	各回授業内容のふり返りと要点の確認
第15回	総括	レポートの返却・解説と総括

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）	選択科目	担当形態	単独
科目	教科に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	商業の関係科目		

授業番号	A3A3006901	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	A I 概論（Introduction to artificial intelligence）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	木曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	情報社会（Society4.0）に続く新たな時代「Society5.0」に向け、誰もがAI（人工知能）についての知識をもつ必要が出てきました。この講義では、AIを実現するさまざまな技術を紹介した後、AIが社会でどのように利用されているかを見ていきます（DP3,4・CP3,4）。その中で、大手IT企業により、実際の取り組みについても紹介してもらいます。AIは快適な生活を創り出す一方で、倫理的な問題も抱えており、これについても解説します。到達目標は、AIに関する基本的な知識を修得することです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は、「情報概論」を履修していることが望ましい。毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。小テストは実施後に正解を示し、解説することでフィードバックを行います。また、随時、内容を深めるための課題を出しますが、次回の授業で解説を行うことでフィードバックします。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習：毎回、授業の途中で小さな問題を3～5問程度課します。学生同士、相互に相談してよい。ほとんどの学生が解答を終えた時点で、正解を示し、その解説を行います。間違っていた場合は訂正を行って、授業終了後に提出して下さい。これにより、新しく得られた知識や考え方を確かなものにすることができます。
⑦ 成績評価方法と割合	平常点：授業内小テスト（毎回）40％ 課題10％ 確認試験：50％

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	AIの主要な技術（機械学習、自然言語処理、画像処理、音声処理）すべてについて概要説明ができ、AIが社会の中で利用されているケースを産業別に1つずつ挙げるができる。
優（A）	AIの主要な技術として機械学習と自然言語処理について概要説明ができ、AIが社会の中で利用されているケースを複数挙げるができる。
良（B）	AIの主要な技術として、機械学習、自然言語処理について不十分ながらも概要説明ができ、AIが社会の中で利用されているケースを1つ挙げるができる。
可（C）	Aの主要な技術として機械学習、自然言語処理、画像処理、音声処理を挙げるができる、AIが社会の中で利用されているケースを1つ挙げるができる。
不可	AIの主要な技術が、機械学習、自然言語処理、画像処理、音声処理があることを説明できないか、社会の中で利用されているケースを一つも挙げるができない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書を事前に読み、用語を理解しておくこと（90分）。日頃からAI関連のニュースに注意するようにしてください（30分）。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解するように努め、必ずその日のうちに復習して、用語とその意味を定着させるようにしてください（60分）。
教科書、ISBN	小高知宏『基礎から学ぶ人工知能の教科書』オーム社 2019年 ISBN:978-4-274-22426-3
参考文献	樋口晋也・城塚晋也『決定版 人工知能』東洋経済新聞社 2017年 ISBN：978-4-492-76233-2

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	AIとは	Society5.0に向けたAI人材育成の必要性、AIの歴史、AIの得意分野と苦手な分野、AIの適用領域
第2回	AIの主要な技術（1）	機械学習（1）教師あり学習（サポートベクターマシン、決定木など）
第3回	AIの主要な技術（2）	機械学習（2）教師なし学習（クラスタリング、頻出パターンマイニング）
第4回	AIの主要な技術（3）	自然言語処理（1）基礎技術（コーパス、形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析）
第5回	AIの主要な技術（4）	自然言語処理（2）応用技術（機械翻訳、情報検索、テキスト分類、質問応答、テキストマイニングなど）
第6回	AIの主要な技術（5）	画像処理、音声処理、知識表現と推論
第7回	産業別ユースケース（1）	金融、自動車、物流における事例
第8回	産業別ユースケース（2）	製造業、農業、観光における事例
第9回	産業別ユースケース（3）	医療、セキュリティ、教育における事例

第10回	ディープラーニング（1）	大手IT企業によるディープラーニングの概要説明
第11回	ディープラーニング（2）	大手IT企業による実際のディープラーニングのアプリケーション紹介
第12回	AI実践（1）	大手IT企業における実際の取り組みとソリューション（画像系）
第13回	AI実践（2）	大手IT企業における実際の取り組みとソリューション（テキスト系）
第14回	AIの社会的課題	倫理的な問題、法的問題、企業側の防衛策
第15回	総括	確認テストと解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B1A3003001	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	アルゴリズム論（Algorithm）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	金曜3限
① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	コンピュータによる問題解決法であるアルゴリズムの基本的な手法について解説します。また、アルゴリズムと深い関係をもつデータ構造についても解説します。授業のねらいは、データ構造とアルゴリズムを学ぶことで、IT関連の職業に向けたプログラミング能力を高めること（DP3・CP3）、また、現代社会では、分野に関係なく必要な論理的な思考法を身につけることです。到達目標は、基本的なアルゴリズムを理解することで、数理的な思考法になじむことです。		
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ（小テスト）を2～3問出して平常点とします。小テスト実施後は必ず正解を示し、解説してフィードバックを行います。また、随時、課題を出しますが、次回の授業で解説することでフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習：毎回、授業の途中で小さな問題を3～5問程度課します。学生同士、相互に相談してよい。ほとんどの学生が解答を終えた時点で、正解を示し、その解説を行います。間違っていた場合は訂正を行って、授業終了後に提出してください。これにより、新しく得られた知識や考え方を確実なものにすることができます。		
⑦ 成績評価方法と割合	授業内小テスト（毎回）40% 課題10% 確認試験50%		

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	3種類の探索アルゴリズム、データ構造（配列、木構造、リスト構造）について説明でき、ソート・アルゴリズムとして、クイックソート、マージソート、ヒープソートの他に、基本選択法、基本交換法、基本挿入法についても説明できる。
優（A）	3種類の探索アルゴリズムと代表的なデータ構造（配列、木構造）についても説明でき、代表的なソート・アルゴリズムとしてクイックソート以外のアルゴリズム（マージソート、ヒープソートの他に、基本選択法、基本交換法、基本挿入法）のうち1種類は説明できる。
良（B）	3種類の探索アルゴリズムと代表的なデータ構造（配列）について説明でき、代表的なソート・アルゴリズムとしてクイックソートについて説明できる。
可（C）	探索アルゴリズム（線形探索、二分探索、ハッシュ探索）と代表的なデータ構造（配列）について説明できる。
不可	探索アルゴリズム（線形探索、二分探索、ハッシュ探索）と代表的なデータ構造（配列）について説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：事前に予習をしておくこと（90分）。 復習：授業中および復習をよくして、数理的な考え方を身につけるよう努めること（90分）。
教科書、ISBN	『データ構造とアルゴリズム』 インフォテック・サーブ 2014年 ISBN:978-4-906859-42-9
参考文献	適宜、プリントを配布します。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	アルゴリズムの基礎（1）	アルゴリズムとは、例として合計を計算するアルゴリズム（3種類）、アルゴリズムの評価基準
第2回	アルゴリズムの基礎（2）	フローチャート
第3回	探索アルゴリズム（1）	配列、線形探索、2分探索 オーダー記法
第4回	探索アルゴリズム（2）	ハッシュ探索（1）、ハッシュ表
第5回	探索アルゴリズム（3）	ハッシュ探索（2）、リスト構造
第6回	探索アルゴリズムのまとめ、データ構造のまとめ	線型探索、二分探索、ハッシュ探索の計算量比較
第7回	ソートアルゴリズム（1）	基本選択法
第8回	ソートアルゴリズム（2）	ヒープソート、木構造（二分木）
第9回	ソートアルゴリズム（3）	基本交換法、シェーカーソート
第10回	ソートアルゴリズム（4）	基本挿入法、シェルソート

第11回	ソートアルゴリズム (5)	クイックソート
第12回	ソートアルゴリズム (6)	マージソート
第13回	ソートアルゴリズムのまとめ	ソートアルゴリズムのまとめ
第14回	データ構造のまとめ 総復習	配列の特例（スタックとキュー）、リスト構造、木構造、 基本制御構造 総復習
第15回	総括	確認試験とその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3B2004601	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	統計学I（Statistics I）		
⑥ 担当教員（英語表記）	米田 紘康（Hiroyasu Yoneda）	履修開始学年	1 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	集中講義

- ① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ
経済学では実データを取り扱います。株価や失業率、GDPなど、一度は耳にしたことがあると思います（DP4）。この講義ではデータのまとめ方（記述統計）について説明し、統計検定3級・4級程度の理解を目指します。統計学が経済学で役立つことは当然ですが、データの読み方やまとめ方は日常でも必ず役立ちます（DP1,3）。
- ② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）
頭だけで納得するのではなく、実際に手を使って納得するようにしましょう。理解度を確認するために宿題を出します。宿題は採点后返却しますので、定期試験対策に役立てて下さい。
- アクティブ・ラーニングの手法
指示された練習問題について学生が答案を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める。
- ⑦ 成績評価方法と割合
確認試験（100%）

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	記述統計および経済統計の知識が習得できている。
優（A）	代表値、分散、標準化、図表化、経済指数、相関係数のうち、およそ4単元が理解しており他人に説明できる。
良（B）	代表値、分散、標準化、図表化、経済指数、相関係数のうち、およそ3単元が理解しており他人に説明できる。
可（C）	記述統計の最低限の知識が習得できる。
不可	統計学の基本的知識が習得できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	この授業では1回（90分）の授業に対して、少なくとも90分の予習と90分の復習が必要となります。予習は、各授業の最後に次週の内容に関するキーワードを提示します。各自で調べるようにしてください。一方、復習では練習問題を準備します。知識を定着させるために解くようにしてください。
教科書、ISBN	プリントを配布します。また、配布資料はダウンロードできます。欠席時や紛失時に利用してください。
参考文献	「データの分析」統計検定3級対応、東京図書 「資料の活用」統計検定4級対応、東京図書

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	統計学の前に	統計学について、データとは何かを理解しましょう。
第2回	母集団と標本	対応関係を理解する。
第3回	調査方法	調査方法の違いを見ます。
第4回	代表値	集団の特性を見る。
第5回	平均値	引き続き、集団の特性を見る。
第6回	分散と偏差	データのばらつきに注目する。
第7回	標準化	異なる集団を比較する方法。
第8回	図表化	データに適したグラフを選ぶ。
第9回	ローレンツ曲線とジニ係数	自分で統計指数を計算する。所得格差を確かめる。
第10回	物価指数	自分で統計指数を計算する。
第11回	経済指数	自分で統計指数を計算する。
第12回	2変数データの整理（1）	身長と体重の関係のように、2つのデータを整理する方法を考えます。
第13回	2変数データの整理（2）	引き続き、2変数データについて考えます。実際にグラフ化や計算をおこないます。
第14回	相関係数	2つのデータの関係の強さを表す「相関」について解説します。
第15回	まとめと確認試験	ポイントのおさらいと確認試験および解説

《教職に関する情報》

免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3B2004701	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	統計学II（Statistics II）		
⑥ 担当教員（英語表記）	米田 紘康（Hiroyasu Yoneda）	履修開始学年	1 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	水曜2限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	経済学では実データを取り扱います。株価や失業率、GDPなど、一度は耳にしたことがあると思います（DP4）。この講義では少ないデータ（標本集団）から全体（母集団）を推測する方法（推定統計）について説明します。たとえば、皆さんの家に視聴率を計測する機械は恐らく無いと思います。にもかかわらず、視聴しているTV所有世帯が推定できるのはなぜでしょうか。レベルとしては、統計検定2級・3級程度の理解を目指します。統計学が経済学で役立つことは当然ですが、データの読み方やまとめ方は日常でも役立ちます（DP1,3）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	頭だけで納得するのではなく、実際に手を使って納得するようにしましょう。理解度を確認するために宿題を出します。宿題は採点後返却しますので、定期試験対策に役立てて下さい。
アクティブ・ラーニングの手法	指示された練習問題について学生が答案を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める。
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験（100%）

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	検定と回帰分析の応用問題を十分理解しており、他人に説明できる。
優（A）	検定または回帰分析の応用問題のうち、おおよそ1つを理解しており他人に説明できる。
良（B）	検定と回帰分析の基礎知識を理解しており、他人に説明できる。
可（C）	検定または回帰分析の基礎知識のうち、おおよそ1つを理解しており他人に説明できる。
不可	推測統計を理解できないため、他人に説明できない。
授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	この授業では1回（90分）の授業に対して、少なくとも90分の予習と90分の復習が必要となります。予習は、各授業の最後に次週の内容に関するキーワードを提示します。各自で調べるようにしてください。一方、復習では練習問題を準備します。知識を定着させるために解くようにしてください。
教科書、ISBN	プリントを配布します。また、配布資料はダウンロードできます。欠席時や紛失時に利用してください。
参考文献	「改訂版 統計学基礎」統計検定2級対応、東京図書 「データの分析」統計検定3級対応、東京図書

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	推測統計の前に	推測統計学の準備：統計学IIでは、一部のデータから全体的特徴・性質を推定する方法について勉強します。
第2回	推測統計学の準備	推測統計に必要な知識を復習します。
第3回	検定の設定	ある仮説が正しいかどうか、統計学を使って判断します。
第4回	検定の誤り	統計学を使っても間違ふことがあります。どのように間違ふのかを説明します。
第5回	母平均の検定	検定の基本です。よく使いますので、しっかり理解しましょう。
第6回	母比率の検定	アンケート調査は全体を表しているのか？
第7回	検定力	偶然ではない結果が得られるかどうかを確認します。
第8回	回帰分析（1）	最もシンプルな予測方法です。たとえば、身長 of データを使って体重を予測する。
第9回	回帰分析（2）	引き続き、回帰分析の方法について勉強します。
第10回	回帰分析（3）	引き続き、回帰分析の方法について勉強します。
第11回	モデルの説明力	当てはまりの良さを説明します。
第12回	重回帰分析（1）	複数のデータを使って、予測します。たとえば、気温と通行人の数でアイスクリームの売上を予測する。
第13回	重回帰分析（2）	引き続き、重回帰分析の方法について勉強します。
第14回	重回帰分析（3）	引き続き、重回帰分析の方法について勉強します。

第15回	まとめと確認試験	ポイントのおさらいと確認試験および解説
------	----------	---------------------

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2010101	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	統計学総論Ⅰ（Statistics introductionⅠ）		
⑥ 担当教員（英語表記）	櫻井 尚子（Naoko Sakurai）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	水曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP/CPに於ける位置づけ	経済社会の諸現象を理解するには質的だけでなく数量的に分析することが不可欠です。数量的に分析するための手法としての統計学を初歩から学びます。理論とともに、実際にどのように統計学が利用されるのかについて、現実のデータを用いて分析を行い、結果について思考・判断します。実践的な経営を考えながらデータを操作し、統計分析結果を思考・判断できる能力を身につけることを目標とします。加えて、自己をとりまく社会環境の変化や社会問題の実態を把握し、社会生活やビジネスの現場で直面する未知の課題に立ち向かうための情報収集能力や経済学的思考力を身に付け、データサイエンスを介して社会において様々な人々と協調して経済活動を行う社会人となることを目標とします。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	データ整理や分析にはパソコン（ソフトウェアはExcel）を使います。この講義に必要なパソコンの知識については、講義をすすめながら初歩から説明します。講義資料はディスプレイに提示し、適宜テキストを活用して全体の理解度をみながら講義をすすめます。講義テーマの区切りごとに課される課題に取り組み、統計指標が示す意味をよく理解して活用できることを目指します。課題は個人別に理解不足箇所を指摘し、完成を目指して指導します。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習、必要に応じてプレゼンテーションを実施し、互いの理解や手法のとらえ方について解説を加える。
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験（50％）・課題作成（30％）・授業参加態度（20％）

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいをクリアし、現実社会に応用可能な深いレベルに達している。
優（A）	授業のねらいにほぼ到達している。
良（B）	授業のねらいと到達目標の中間レベルに達している。
可（C）	到達目標には達していると認められる。
不可	到達目標に達していない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書をよく読んでおく（60分以上） 復習：前回の講義内容を理解しているものとして以降をすすめるので、必ず復習しておくこと（60分以上） 提出課題：指摘された修正箇所をやりなおし、完成までもっていくこと（90分以上）
教科書、ISBN	向後千春・富永敦子著（2016）「統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学」技術評論社
参考文献	岩崎学・西郷浩他著（2017）「スタンダード統計学基礎」培風館

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	授業に必要な基礎知識とコンピュータ操作の確認	授業内容の概要説明、統計学の基本知識とパソコン操作の確認
第2回	授業に必要なパソコン操作基礎	パソコン操作の再確認、実データ入力とチェック
第3回	表計算操作基礎（1）	データの視覚化（表・グラフの作成）
第4回	表計算操作基礎（2）	表計算のための操作技術（関数・絶対参照他）
第5回	ポテトの長さは揃っているか（中心指標）	平均と度数分布
第6回	ポテトの長さは揃っているか（ばらつき）	分散と標準偏差
第7回	ポテトの本数はどのくらいなのか	母集団と標本の概念
第8回	ポテトの本数はどんな範囲にあるのか	区間推定の考え方や信頼区間の求め方
第9回	ライバル店と売上げを比較する方法（1）	仮説検定の考え方やプロセス
第10回	ライバル店と売上げを比較する方法（2）	カイ2乗検定

第11回	どちらの商品が売れているのかを知る（１）	平均の差の検定
第12回	どちらの商品が売れているのかを知る（２）	t 検定（対応なし）
第13回	もっと詳しく調べたい（１）	対応あり・なしの解説
第14回	もっと詳しく調べたい（２）	t 検定（対応あり）
第15回	まとめと確認試験	試験・試験の解答解説・総括

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2010201	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	統計学総論 II（Statistics introduction II）		
⑥ 担当教員（英語表記）	櫻井 尚子（Naoko Sakurai）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	水曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP/CPに於ける位置づけ	統計学総論 I と同様に、理論と同時に、実際にどのように統計学が利用されているか、について学びます。使用する教科書に沿って、経営に必要な統計学の内容を様々な場面からデータを用いて実践していきます。商品の需要と温度その他の環境変動との関係や推定プロセスを調べることで、社会で役立つ実践的なデータ分析手法を学びます。また、統計分析結果について正確に思考・判断できる能力を身に付けることも授業のねらいです。加えて、自己をとりまく社会環境の変化や社会問題の実態を把握し、社会生活やビジネスの現場で直面する未知の課題に立ち向かうための情報収集能力や経済学的思考力を身に付け、データサイエンスを介して社会において様々な人々と協調して経済活動を行う社会人となることを目標とします。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	理論を理解した後、データ整理や分析にはパソコンを用い、ソフトウェアはExcelを使います。この講義に必要なパソコン操作知識は、初歩から説明します。統計学の理解を深め、ソフトウェアの操作技術を上げるために、課題に挑戦し、指摘を受けた修正を繰り返しながら完成を目指してもらいます。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習、必要に応じてプレゼンテーションを実施し、互いの理解や手法のとりえ方について解説を加える。
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験（50%）・課題作成（30%）・授業参加態度（20%）で評価します。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいをクリアし、現実社会に応用可能な深いレベルに達している。
優（A）	授業のねらいにほぼ到達している。
良（B）	授業のねらいと到達目標の中間レベルに達している。
可（C）	到達目標には達していると認められる。
不可	到達目標に達していない。

授業の予習・復習（1 授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書をよく読んで、疑問点を整理しておくこと（60分以上） 復習：前回の講義を理解しているものとして、それ以降を進めていくので、復習を必ず行い、知識や技術を確認して身に付けておくこと（60分以上） 課題：提出課題の中身をよく読んで、指摘を受けた箇所を修正し、完成した課題作成を目指すこと（90分以上）
教科書、ISBN	向後千春・富永敦子著（2016）「統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学」技術評論社
参考文献	岩崎学・西郷浩他著（2017）「スタンダード統計学基礎」培風館

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	基礎知識とコンピュータ操作の確認	授業内容の説明、統計学総論 I の復習、知識整理
第2回	3つ目のライバル店出現の場合（1）	3つの違いをどのように考えるのか
第3回	3つ目のライバル店出現の場合（2）	分散分析（1 要因）
第4回	店間の差をつけるには？	分散分析（2 要因）
第5回	変数間の関係を知るには？	視覚化（散布図他）
第6回	関係の強さを知りたい	相関係数の定義と計算
第7回	相関の強さを知ってさらに考える	相関係数の意味を理解する
第8回	その関係指標は有意なのか	無相関の検定
第9回	最高気温で客数を予測する（1）	回帰分析の原理
第10回	最高気温で客数を予測する（2）	変数の視覚化・回帰式を求める
第11回	最高気温で客数を予測する（3）	回帰式の正確性の判断と式の応用
第12回	複数の説明変数から目的変数を予測する（1）	重回帰モデルでの予測

第13回	複数の説明変数から目的変数を予測する（2）	最適モデルの選択
第14回	複数の説明変数から目的変数を予測する（3）	重回帰分析結果の考え方と応用
第15回	まとめと確認試験	試験の解答解説と総括

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3A3007001	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	プログラミング		
⑥ 担当教員（英語表記）	森島 隆晴（Takaharu Morishima）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	水曜1限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	情報社会では、日常生活がビッグデータとして収集・蓄積され、ビジネスで使われるようになっています。授業のねらいは、統計処理やAI技術を用いたデータ解析方法を学ぶことで、一般教養としてのプログラミング能力を身に付けることです。到達目標は、目的に合わせたデータ解析用プログラミングを作成し、解析結果を解釈できることです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は、前期「アルゴリズム論（森島）」を履修してpythonプログラミングができること、および前期「AI概論」を履修してAIの仕組みが分かることです。人数制限があるため履修希望者は必ず第1回目から出席してください。なお、第2,3回目を欠席してプログラミング関連操作ができない場合は履修が困難です。毎回、課題説明と課題実施のためのディスカッションを行い、課題を提出してもらいます。出された課題は、次の初めにフィードバックと解説を行います。課題に関するディスカッションを通じて、学生間でもフィードバックし合ってもらいます。
アクティブ・ラーニングの手法	毎回の課題を解決するために、調べ学習やディスカッションを行い、課題のデータ解析や解釈をグループワークで行います。
⑦ 成績評価方法と割合	毎回の提出課題(55%)と15回目の実技試験(45%)で評価します。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	目的に合わせてデータ解析プログラムを作成し、データ解析結果を解釈できる。
優（A）	目的に合わせてデータ解析プログラムを作成し、データ解析できる。
良（B）	データ解析のためにpythonでプログラミングできる。
可（C）	pythonプログラムによるデータ処理ができる。
不可	pythonプログラムによるデータ処理ができない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	毎回、授業内容の資料をよく読み(20分以上)、用語や操作方法(30分以上)について予習してください。また、その回でやった操作方法是次回以降も使いますので、限られた時間内に作業が終えられるように何度も手順を確認し(90分以上)、作業内容の意味付け(40分以上)を行ってください。
教科書、ISBN	教科書は使いません。資料とデータを配布します。
参考文献	寺田 学他(2019)『pythonによる新しいデータ分析の教科書』翔泳社 島田達郎他(2019)『pythonによるはじめての機械学習プログラミング』技術評論社 石川聡彦(2018)『pythonで動かして学ぶ新しい深層学習の教科書』翔泳社

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	pythonプログラミング	受講者の確認、講義の概要と評価方法、pythonプログラミングの概要
第2回	プログラムの作成と実行	pythonの実行環境におけるプログラムの作成と実行
第3回	データ解析の準備	pythonプログラミング手順の復習
第4回	データの前処理1	Pandasによるデータフレームの変換や集計処理
第5回	データの前処理2	Pandasによるデータ形式の操作やデータ取得
第6回	データの統計処理1	Pandasによるデータ解析1
第7回	データの統計処理2	Pandasによるデータ解析2
第8回	機械学習でのデータ解析1	Scikit-Learnによる機械学習1
第9回	機械学習でのデータ解析2	Scikit-Learnによる機械学習2
第10回	機械学習でのデータ解析3	Scikit-Learnによる機械学習3
第11回	深層学習でのデータ解析1	Gensimによる自然言語処理1
第12回	深層学習でのデータ解析2	Gensimによる自然言語処理2
第13回	深層学習でのデータ解析3	PyTorchによる自然言語データの分類
第14回	ふり回り	各回授業内容のふり回りと試験方法の確認
第15回	総括	実技試験と解説

《教職に関する情報》

免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B1B1023001	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	マーケティングリサーチⅠ（Marketing researchⅠ）		
⑥ 担当教員（英語表記）	田中 未央（Mio Tanaka）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	金曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	社会調査・マーケティング・リサーチの手法は、インターネット調査の普及により、変化していますが、基本的なデータ分析方法を身につけることは、このような変化に関わらず必要です。この授業のねらいは、以下のとおりです。 ① 記述統計を学び、自分自身でデータの記述統計量や単純集計表、グラフの作成、相関などの分析を行い、専門分野の知識を体系的に身につけ、必要な情報を主体的に収集し分析することや専門分野の問題について論理的に述べる表現力や実践的なコミュニケーション能力を身につける。（DP3・DP4） ② 統計分析の結果の適切な解釈及びレポートにまとめる力をつける。（DP3・DP4） 授業では、統計パッケージソフト（SPSS）を用いて、これらの分析を学びます。ゼミや卒業論文で自分自身が行うデータ分析が行えることや、新聞や書籍等で扱われる統計資料を読み取るために必要な知識を身につけるなど、各自の目標に応じた専門知識の獲得につなげていきます。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	① 授業は、パソコンでのエクセル、ワードの基本操作ができることを前提として進めます。特に、エクセルの基本操作はできるようにしておいてください。 ② 授業で用いる統計ソフトSPSSは大学内のすべてのパソコンで使用可能なので、授業内、授業外において積極的に自習してください。 ③ 授業中は、他の受講生の練習問題の進行の妨げとなるため、私語や遅刻厳禁です。 ④ 授業内に行う練習問題、その授業時間内に解答例のフィードバックを行います。 ⑤ 課題、小テストについては、翌週の授業で解答例のフィードバックを行います。 ⑥ 特別なテキストは指定しませんが、参考文献にあげた文献の中から2点以上の文献を読んでください。 以上を含め、初回授業で、授業の進め方の詳細を説明をします。
アクティブ・ラーニングの手法	双方型演習：授業内で取り組む練習問題の解答を学生が作成し、指定のフォルダに送り、教員が解答・コメントをフィードバックする。
⑦ 成績評価方法と割合	平常点（毎回の授業内容に沿った練習問題の提出と解答内容により評価）:40% 確認試験・課題・小テスト:60%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	記述統計の基本用語の概念および適切な算出方法のプロセスを正しく説明できる。
優（A）	記述統計の基本用語の概念および適切な算出方法のプロセスを概ね説明できる。
良（B）	記述統計の基本用語の概念および算出方法を正しく説明できる。
可（C）	記述統計の基本用語の概念を概ね説明できる。
不可	記述統計の基本用語の概念を説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：次回の授業で学ぶ統計用語や計算式等について、教科書を読み、不明な点等を確認すること（60分以上）。特に、前回授業と関連する内容については、不明な点を説明できるように具体的にまとめること（30分以上）。 復習：授業資料と教科書を読み返し、授業で学んだ統計用語の意味を説明できるようにすること（30分以上）。授業で学んだ練習問題や解説を受けた課題について、計算式または計算ソフトを用いて、自分自身で解答が導き出せるように復習すること（60分以上）。
教科書、ISBN	使用しない。 必要に応じて資料を配布します。
参考文献	『意味がわかる統計解析』 涌井貞美、ベレ出版（2013年） 『統計学入門』 小島寛之著、ダイヤモンド社、2006年 『統計のはなしー基礎・応用・娯楽』 大村平（著） 日科技連（2002年） 『統計解析のはなしーデータに語らせるテクニック』 大村平（著） 日科技連（2006年） 『統計数字を読み解くセンスー当確はなぜすぐにわかるのか？』 青木繁伸 化学同人（2006年）

09年)

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第2版）』小塩真司著 東京図書 （2011年）

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	マーケティング・リサーチと統計	マーケティング・リサーチの主なデータ収集方法と分析について・記述統計とは何か
第2回	データの収集	データ収集方法、データ入力、データの編集、統計ソフトSPSS用（sav.）変換
第3回	変数と尺度	質的変数と量的変数、尺度の種類について、具体例を用いた説明
第4回	分析のための基礎的な統計用語	データ分析を行うための基礎的な統計用語の説明
第5回	データの単純集計	データの単純集計表の作成と見方の説明
第6回	単純集計のまとめ方	変数の種類などに適したグラフの作成の仕方
第7回	基本統計量	度数分布に関する基本統計量（平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差）
第8回	クロス集計とクロス集計表	2変数（質的データ）のクロス集計表の作成とその解釈
第9回	クロス集計表と関連度	2変数のクロス集計表における関連度
第10回	クロス集計の応用	3変数のクロス集計表の作成とその解釈
第11回	相関（1）	2変数（量的データ）の散布図、相関係数の大きさに影響する要因、はずれ値
第12回	相関（2）	擬似相関、偏相関、相関と因果の違い
第13回	複数回答のデータ・新しい変数の作成・ケースの選択など	SPSSの活用例（複数回答の集計、ケースを選択した集計の仕方）
第14回	記述統計のまとめ	授業で学んだ記述統計に関する練習問題を通した復習
第15回	授業の振り返りとまとめ	第1回から14回までの授業の振り返り、確認試験

《教職に関する情報》

免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B1B1023901	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	マーケティングリサーチ II（Marketing research II）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	カリキュラムにより異なります。 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	金曜3限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	本科目は、マーケティングリサーチ I と同様に社会調査士資格取得に必要な科目で、推測統計学や回帰分析について学びます。統計学の理論だけでなく、データを分析するために社会科学統計パッケージソフト（SPSS）の使い方も学びます。理解度を深めるために、毎回、課題をやってもらいます（DP3,4・CP3,4）。到達目標は、量的・質的データに対して適切な分析を行うことができるようになることと、自分で行ったデータ分析の結果に対して適切な解釈と記述にまとめることができるようになることです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は、EXCELが使えることです。「マーケティングリサーチ I」を履修していることが望ましい。授業は、理論を解説した後、PCを使用してSPSSを動かすことで実践的に学びます。
アクティブ・ラーニングの手法	ディスカッション、双方向型演習
⑦ 成績評価方法と割合	毎回の課題への取り組み方45% 最終レポート55%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	推測統計学の概念が説明でき、実際に検定や推定が行うことができる、また、回帰分析の説明もでき、実際に分析を行って結果についての解釈も正しく行える。
優（A）	推測統計学の概念がほぼ説明でき、実際に検定や推定を行うことができる、また、回帰分析についてもほぼ説明でき、実際に分析を行って結果についての解釈を正しく行える。
良（B）	推測統計学の概念の説明が不十分であるが、実際に検定や推定が行うことができる。また、回帰分析についての説明も不十分であるが、実際に分析を行った結果についての解釈は正しく行える。
可（C）	推測統計学の概念説明は不十分であるが、実際に検定や推定が行うことができるか、または回帰分析についての説明は不十分であるが、実際に分析を行って結果についての解釈は正しく行える。
不可	推測統計学の概念が説明できず、検定や推定も行うことができない。また、回帰分析の説明もできず、実際に分析を行って結果についての解釈ができない。

授業の予習・復習（1 授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：次回の内容について、教科書を読んでおくこと（60分） 復習：毎回の授業後にその日に学んだ内容を振り返る。また授業内に実施した課題が終わらない場合は次回までに仕上げ、完全に理解するまで復習をする（60分）
教科書、ISBN	林拓也『社会統計学入門』放送大学教育振興会 2012年 ISBN:978-4-595-31370-7
参考文献	

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	推測統計学とは	授業の進め方、推測統計学とは（記述統計学との違いなど）
第2回	記述統計の復習	代表値（平均値、中央値、最頻値）・散布度（分散、標準偏差）など
第3回	母集団と標本	母集団と標本、標本抽出法
第4回	正規分布、確率分布	正規分布、標準正規分布、確率分布
第5回	統計的推定（1）	統計的推定の考え方、比率の推定
第6回	統計的推定（2）	平均値の推定
第7回	統計的検定	統計的検定の考え方、統計のための仮説、有意水準、片側/両側検定
第8回	平均値の差の検定（1）	t分布とt検定（独立2群の場合、対応のある場合）

第9回	平均値の差の検定（2）	一元配置の分散分析
第10回	質的変数の検定（1）	適合度検定
第11回	質的変数の検定（2）	独立性の検定（ χ^2 検定）
第12回	回帰分析（1）	散布図・相関係数・単回帰分析
第13回	回帰分析（2）	単回帰分析の演習問題
第14回	適切な推定・検定方法	適切な方法をどのように選ぶか
第15回	総括	本授業を振り返る課題に対するレポート作成

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3A3007301	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	観光マーケティング調査（Tourism marketing research）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	木曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	本科目の目的は、社会科学の分野で重要な重回帰分析やクラスター分析、因子分析などの多変量解析について学ぶことです（DP3,4・CP3,4）。また、これらの統計理論だけでなく、練習用のデータを用いて社会科学統計パッケージソフト（SPSS）の使い方も学んで、観光分野で利用される実際のデータについての分析を行います。到達目標は、各種量的データの性質と分析目的に応じて適切な方法を選択できること、得られた分析結果に対して適切な解釈ができること、さらにこれをレポートにまとめることができるようになることです。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	多変量解析法を1つ学ぶたびに、その解析法を用いてデータを分析する課題を出すので、授業時間に分析した結果をまとめたレポートを作成し、提出してもらいます。次回の授業に返却して解説することで、フィードバックを行います。
アクティブ・ラーニングの手法	ディスカッション、双方向型演習
⑦ 成績評価方法と割合	課題90%（30%×3つ）、ディスカッションへの参加度10%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	4種類の多変量解析について正しく説明でき、SPSSを使用してデータの性質に合わせた適切な分析を行うことができる
優（A）	3種類の多変量解析について正しく説明でき、SPSSを使用してデータの性質に合わせた適切な分析を行うことができる
良（B）	2種類の多変量解析について正しく説明でき、SPSSを使用してデータの性質に合わせた適切な分析を行うことができる
可（C）	1種類の多変量解析について正しく説明でき、SPSSを使用してデータの性質に合わせた適切な分析を行うことができる
不可	多変量解析について1種類の方法も説明することができないか、SPSSを用いた分析を行うことができない

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：次回の内容について、教科書を読んでおくこと（60分） 復習：毎回の授業後にその日に学んだ内容を振り返る。またレポートが返却された回は、レポートを作成した多変量解析について、完全に理解するまで復習をする（60分）
教科書、ISBN	酒井 隆他『マーケティングで使う多変量解析がわかる本』日本能率協会 2007年 ISBN: 978-4820744191
参考文献	小杉孝司『社会調査士のための多変量解析』北大路書房 2007年 ISBN 978-4-7628-2556-9

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	ガイダンス	授業のすすめ方、多変量解析とは、SPSSについて
第2回	重回帰分析（1）	重回帰分析の解説とSPSSを利用した分析方法の説明
第3回	重回帰分析（2）	SPSSによる処理の練習と結果の解釈の仕方
第4回	重回帰分析（3）	実データを用いたSPSSによる分析と結果の解釈
第5回	重回帰分析（4）	レポート作成（課題1）
第6回	クラスター分析（1）	クラスター分析の解説とSPSSを利用した分析方法の説明
第7回	クラスター分析（2）	SPSSによる処理の練習と結果の解釈の仕方
第8回	クラスター分析（3）	実データを用いたSPSSによる分析と結果の解釈
第9回	クラスター分析（4）	レポート作成（課題2）
第10回	因子分析（1）	因子分析の解説とSPSSを利用した分析方法の説明
第11回	因子分析（2）	SPSSによる処理の練習と結果の解釈の仕方
第12回	因子分析（3）	実データを用いたSPSSによると結果の解釈

第13回	因子分析（4）	レポート作成（課題3）
第14回	その他の主な多変量解析	多次元尺度法の解説とSPSSによる処理の練習と結果の解釈の仕方
第15回	総括	多変量解析のまとめ

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2027201	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	経済統計Ⅰ（Economic statistics I）		
⑥ 担当教員（英語表記）	櫻井 尚子（Naoko Sakurai）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	水曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	経済統計についての知識を深め、経済統計データを使ってコンピュータによるデータ整理と解釈の方法を習得する。経済データを統計分析し、分析結果を正確に思考・判断する能力を身に付けることを目的とする。ネットワーク上に存在する経済のオープンデータを収集する方法を学び、代表的な統計調査データを使って、経済統計の手法を総合的に習得することを目指す。加えて、自己をとりまく社会環境の変化や社会問題の実態を把握し、社会生活やビジネスの現場で直面する未知の課題に立ち向かうための情報収集能力や経済学的思考力を身に付け、社会において様々な人々と協調して経済活動を行う社会人となる能力を養成する。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	データ処理にはパソコン（ソフトウェアはExcel）を使用する。分析処理に必要な知識と技術は、授業内で説明し、実習を通して身に付けてもらうことを目指す。授業に必要な教材については事前に説明するので、よく準備をしておくこと。課題については、課題の完成まで指摘を受けながら繰り返し取り組み、知識と技術の習得を確実にすること。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習、必要に応じてプレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、互いの理解や手法のとりえ方について解説を加え、分析の方向性への理解を深める。
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験（50％）・課題作成（30％）・授業参加態度（20％）で評価する。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいをクリアし、現実社会に応用可能な深いレベルに達している。
優（A）	授業のねらいにほぼ到達している。
良（B）	授業のねらいと到達目標の中間レベルに達している。
可（C）	到達目標には達していると認められる。
不可	到達目標に達していない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書をよく読んでおく（60分以上） 復習：前回の講義内容を理解しているものとして以降をすすめるので、必ず復習しておくこと（60分以上） 提出課題：指摘された修正箇所をやりなおし、完成までもっていくこと（90分以上）
教科書、ISBN	迫田宇広他著（2014）「問題解決力向上のための統計学基礎 Excelによるデータサイエンススキル」一般財団法人 日本統計協会
参考文献	加納悟他著（2011）「入門 経済のための統計学」日本評論社

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	基礎知識とコンピュータ操作	授業内容の概要を説明、必要となるコンピュータ操作の確認
第2回	経済統計データの検索	パソコン操作とオープンデータの閲覧
第3回	表計算操作技術（1）	千葉市のデータを使って、表とグラフの作成
第4回	表計算操作技術（2）	千葉市のデータを使って、関数利用や絶対参照機能の習得
第5回	統計データとはなにか（1）種類	統計とデータの種類
第6回	統計データとはなにか（2）観点	全数調査と標本調査の意味を理解する
第7回	統計データとはなにか（3）形態	統計データの形態を知る
第8回	経済データの具体例（1）	不平等度を測る
第9回	経済データの具体例（2）	不平等度を視覚化する
第10回	経済データで統計処理（1）	主要な統計指標の計算
第11回	経済データで統計処理（2）	統計データ分析事例
第12回	家計のデータを統計的に分析する（1）	家計調査とは
第13回	家計のデータを統計的に分析する（2）	統計の作表
第14回	家計のデータを統計的に分析する（3）	5分位階級データの分析

第15回	まとめと確認試験	試験・試験の解答解説・授業の総括
------	----------	------------------

《教職に関する情報》

免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2027301	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	経済統計II（Economic statistics II）		
⑥ 担当教員（英語表記）	櫻井 尚子（Naoko Sakurai）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	水曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP/CPに於ける位置づけ	経済統計 I の知識を前提に、経済統計についての知識をさらに深め、経済統計データを使つてのデータ処理の方法を習得する。経済データを統計分析することにより、分析結果を思考・判断できる能力を身に付けることを目標とする。ネットワークを使って様々な経済統計データの収集方法を学ぶ。特に、代表的な統計調査を取り上げて、内容を詳細にデータ処理し、経済指標としての意味を理解できるよう、実際の課題をとおして学んでいく。ビッグデータ等の大量データの適用事例についても言及し、現在の経済社会の変化を予測するとともに、データ処理結果の正確な解読に努め、経済統計の意味を総合的に理解する能力を身に付ける。加えて、自己をとりまく社会環境の変化や社会問題の実態を把握し、社会生活やビジネスの現場で直面する未知の課題に立ち向かうための情報収集能力や経済学的思考力を身に付け、社会において様々な人々と協調して経済活動を行う社会人となれる能力を養成する。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	データ処理にはパソコン（ソフトウェアはExcel）を使用する。分析処理に必要な知識と技術は、授業内で説明し、実習を通して身に付けてもらうことを目指す。授業に必要な教材については事前に説明するので、よく準備をしておくこと。課題については、課題の完成まで指摘を受けながら繰り返し取り組み、知識と技術の習得を確実にすること。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習、必要に応じてプレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、互いの理解や手法のとりえ方について解説を加え、分析の方向性への理解を深めます。また、プレゼンテーション実施時の聴き方や質問のしかた等について、実社会の現場に即して指導します。長文レポートの書き方についても解説します。
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験（50％）・課題作成（30％）・授業参加態度（20％）で評価する。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいをクリアし、現実社会に応用可能な深いレベルに達している。
優（A）	授業のねらいにほぼ到達している。
良（B）	授業のねらいと到達目標の中間レベルに達している。
可（C）	到達目標には達していると認められる。
不可	到達目標に達していない。

授業の予習・復習（1 授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：教科書をよく読んでおく（60分以上） 復習：前回の講義内容を理解しているものとして以降をすすめるので、必ず復習しておくこと（60分以上） 提出課題：指摘された修正箇所をやりなおし、完成までもっていくこと（90分以上）
教科書、ISBN	迫田宇広他著（2014）「問題解決力向上のための統計学基礎 Excelによるデータサイエンススキル」一般財団法人 日本統計協会
参考文献	加納悟他著（2011）「入門 経済のための統計学」日本評論社

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	基礎知識整理とコンピュータ操作	授業内容の説明、経済統計 I の内容確認
第2回	家計調査結果から統計指標を作成する（1）	平均・標準偏差の計算と解読
第3回	家計調査結果から統計指標を作成する（2）	所得階層別度数分布表とグラフ
第4回	家計調査結果からの統計指標を評価する（1）	標本からの度数分布表とグラフの作成
第5回	家計調査結果からの統計指標を評価する（2）	正規分布と食料費
第6回	時系列変化（1）	時系列統計処理の考え方
第7回	時系列変化（2）	季節調整
第8回	時系列変化（3）	移動平均
第9回	企業の動向（1）	利益の統計処理

第10回	企業の動向（2）	適合度検定
第11回	回帰分析で経済データを予測する（1）	消費関連の単回帰分析
第12回	回帰分析で経済データを予測する（2）	消費関連の重回帰分析と変数選択
第13回	経済データと最適化	ソルバーによる最適化問題への対応
第14回	ビッグデータの活用	経済におけるビッグデータ活用の具体例
第15回	まとめと確認試験	試験・試験の解答解説・授業の総括

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2018701	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	計量経済学I (Econometrics I)		
⑥ 担当教員（英語表記）	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	木曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）および最小2乗法を中心とした回帰分析の基礎的概念と方法を説明する（DP3）。統計学や数学に関する詳細な議論よりもむしろ、計量経済分析の方法を使って何が出来るのか、どのようにすれば自分自身の手で情報を収集し、処理することができるのかを示すこと（DP4）を主眼としたい。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	入門的な教科書を主に利用しながら、これを補足する各種の資料やいっそう分かりやすい説明のために、毎回プリントを配布しながら論じる。数回ごとにそれまでの講義内容に関する課題（小テストなど）を提出、実施する。期末の試験は毎回の講義内容およびこれらの課題に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講し、さらに自宅学習としてこれらをよく復習しておくことが重要である。科目の性質上数字や数式が使用される機会が多いが、抽象的な説明だけでなく具体的なデータの検討を通じて理解を促すよう努める。経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある2年生の受講を歓迎する。
アクティブ・ラーニングの手法	
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験(80%)、レポート及びその他の課題(20%)を考慮して評価する。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

《評価基準》

評価	判定基準
秀 (S)	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、実際のデータ分析の諸場面に応じて必要とされる様々な計量経済分析の手法を用いて、より進んだ分析を行うことができる。
優 (A)	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、実際のデータ分析の諸場面に応じて必要とされる計量経済分析の手法を適切に選択し、正しい推論を行うことができる。
良 (B)	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、様々な計量経済分析の手法を正しく理解しているということを説明できる。
可 (C)	講義に出席して所定の課題に取り組み、計量経済分析において基本となる諸概念を正しく理解している。
不可	講義に出席して所定の課題に取り組まない。あるいは計量経済分析において基本となる諸概念を理解していない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：講義初回に配布する詳細なシラバスを参考にしつつ、教科書および前回の講義における指示などに基づいて、その回の講義内容に関連した事項について30分ほど考えてきてほしい。 復習：毎回の講義に必ず出席してその回のプリントを入手するだけでなく、講義の際の説明でプリントを詳細に補足し、教科書と併せて復習としてそれを整理しておくこと（最低でも1時間はかかる作業と思ってほしい）。またテーマごとに実施する小テストに備えて、各回の論点について計画的にまとめておくよう心掛け、答案の返却を必ず受けて解説のプリントと比較することで要点を再確認し、試験に備えること。
教科書、ISBN	山本拓・竹内明香「入門計量経済学」新世社。
参考文献	山本拓「計量経済学」新世社など。その他必要に応じて講義時に紹介する。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	はじめに（1）	講義内容紹介・計量経済学とは
第2回	はじめに（2）	経済分析におけるエビデンスの重要性と計量経済学の役割
第3回	最小2乗法（1）	データの整理...データの種類と基本統計量の復習
第4回	最小2乗法（2）	正規方程式の意味と導出、Excelによるデータの検討①
第5回	最小2乗法（3）	回帰直線の推定方法と計算、Excelによるデータの検討②
第6回	最小2乗法（4）	回帰直線のあてはまりの尺度
第7回	最小2乗法（5）	ここまでのまとめ・回帰分析の計算と結果の解釈
第8回	単純回帰分析（1）	確率的モデルの概念...古典的回帰モデルの考え方
第9回	単純回帰分析（2）	推定量の期待値と分散
第10回	単純回帰分析（3）	仮説検定...仮説検定の考え方

第11回	単純回帰分析（４）	仮説検定... t 検定とその利用
第12回	単純回帰分析（５）	仮説検定...変数選択の方法としての t 検定
第13回	単純回帰分析（６）	回帰分析と予測、ここまでのまとめと練習
第14回	単純回帰分析（７）	多重回帰分析への展開
第15回	まとめ	第 1 回から 1 4 回までの授業の振り返り、確認試験及びその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2018801	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	計量経済学II（Econometrics II）		
⑥ 担当教員（英語表記）	馬場 正弘（Masahiro Baba）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	木曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）及びその活用法を中心に、計量経済分析の実際の方法を説明する（DP3、DP4）。前期に続いて、計量経済分析の方法を使って何が出来るのか、どのようにすれば自分自身の手で情報を収集し、処理することができるのかを示すこと（DP4）を主眼とした。後期開講の本科目においては、前期科目の計量経済学Ⅰの基礎的な理解を念頭に置きつつも、それとは独立して実際の統計データを回帰分析する手法を学んでもらう。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	入門的な教科書を主に利用しながら、これを補足する各種の資料やいっそう分かりやすい説明のために、毎回プリントを配布しながら論じる。数回ごとにそれまでの講義内容に関する課題（小テストなど）を提出、実施する。期末の試験は毎回の講義内容およびこれらの課題に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講し、さらに自宅学習としてこれらをよく復習しておくことが重要である。特に本科目では実証分析の方法を中心に説明する。例えば、論文執筆に際して実証分析を行いたいので理論そのものよりも分析の手順を知りたい、というケースなども想定している。経済・経営両学科の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある2年生の受講を歓迎する。
アクティブ・ラーニングの手法	
⑦ 成績評価方法と割合	確認試験(80%)、レポート及びその他の課題(20%)を考慮して評価する。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、実際のデータ分析の諸場面に応じて必要とされる様々な計量経済分析の手法を用いて、より進んだ分析を行うことができる。
優（A）	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、実際のデータ分析の諸場面に応じて必要とされる計量経済分析の手法を適切に選択し、正しい推論を行うことができる。
良（B）	講義に出席して所定の課題に取り組み、諸概念の理解に基づいて、様々な計量経済分析の手法を正しく理解しているということを説明できる。
可（C）	講義に出席して所定の課題に取り組み、計量経済分析において基本となる諸概念を正しく理解している。
不可	講義に出席して所定の課題に取り組まない。あるいは計量経済分析において基本となる諸概念を理解していない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：講義初回に配布する詳細なシラバスを参考にしつつ、教科書および前回の講義における指示などに基づいて、その回の講義内容に関連した事項について30分ほど考えてきてほしい。 復習：毎回の講義に必ず出席してその回のプリントを入手するだけでなく、講義の際の説明でプリントを詳細に補足し、教科書と併せて復習としてそれを整理しておくこと（最低でも1時間はかかる作業と思ってほしい）。またテーマごとに実施する小テストに備えて、各回の論点について計画的にまとめておくよう心掛け、答案の返却を必ず受けて解説のプリントと比較することで要点を再確認し、試験に備えること。
教科書、ISBN	山本拓・竹内明香「入門計量経済学」新世社。
参考文献	山本拓「計量経済学」新世社など。その他必要に応じて講義時に紹介する。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	はじめに	講義内容紹介と前期の復習、経済・経営における実証分析の意義と手法
第2回	多重回帰分析（1）	係数の推定と回帰平面①多重回帰分析の概念と手順
第3回	多重回帰分析（2）	係数の推定と回帰平面②係数の推定と検定、Excelによる分析の方法
第4回	多重回帰分析（3）	自由度修正済み決定係数
第5回	多重回帰分析（4）	多重回帰分析における係数の解釈
第6回	多重回帰分析（5）	説明変数の選択の問題...見かけ上の相関と多重共線性
第7回	多重回帰分析（6）	多重共線性の発見と対処の方法、この章のまとめと練習
第8回	モデルの関数型（1）	標準型モデルへの変数変換

第9回	モデルの関数型（2）	対数線形モデルの考え方と利用法
第10回	モデルの関数型（3）	ダミー変数とトレンド変数
第11回	モデルの関数型（4）	ダミー変数を用いた計測の実例、この章のまとめと練習
第12回	誤差項の系列相関（1）	時系列データにおける誤差項の性質
第13回	誤差項の系列相関（2）	ダービン・ワトソン検定による誤差項の系列相関の発見
第14回	誤差項の系列相関（3）	コ克蘭・オーカット法による推定
第15回	まとめ	第1回から14回までの授業の振り返り、確認試験及びその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2034701	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	情報ビジネス論（旧情報システム論）（Business Intelligence）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2019年度 後期	開講曜日	金曜3限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	加速する情報社会にあって、企業意思決定を高度し迅速化するためには、誰もが情報を有効に利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織に関する基本的な知識を取得することで、企業への就職に役立つビジネスの動向と特徴を理解し、地域社会の発展に貢献できる力を養うことです。到達目標は、ICTをさまざまに活用したいわば「生きた経営学（e経営学）」の基本的な知識を身につけることです（DP・CP）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は「情報概論」を履修していることが望ましい。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。小テストは実施後に正解を示し、解説を行うことでフィードバックします。また、随時、課題を出しますが、次回の授業で解説を行ってフィードバックします。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習：毎回、授業の途中で小さな問題を3～5問程度課します。学生同士、相互に相談してよい。ほとんどの学生が解答を終えた時点で、正解を示し、その解説を行います。間違っていた場合は訂正を行って、授業終了後に提出して下さい。これにより、新しく得られた知識や考え方を確かなものにすることができます。
⑦ 成績評価方法と割合	授業内小テスト（毎回）40% 課題10% 確認試験50%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	EAやeビジネスについての概要が説明でき、労働のeビジネス化、教育のeビジネス化についても説明できる。
優（A）	EAについての概要が説明でき、eビジネスについての概要が説明できる。
良（B）	BIを含めたEA（全社企業システム体系）の各要素（BSC、ERP、SCM等）について説明できる。
可（C）	BI（ビジネスインテリジェンス）の各要素（DB、DWH、DM、データマイニング、テキストマイニング等）について説明できる。
不可	BIの概要が説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：テキストを事前に読んでおくこと（90分）。日頃から企業のIT活用に関連するニュースに注意してください（30分）。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解をし、その日のうちに復習を行って、用語と概念を定着させて下さい（60分）。
教科書、ISBN	『eビジネス&マーケティングの教科書 情報化社会におけるビジネスの捉え方 第二版』 大嶋淳俊著 学文社 2016年
参考文献	適宜、プリントを配布します。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	経営と情報活用	情報社会の現状と企業経営の変化、情報システムの重要性（POS システムなど）
第2回	経営戦略（1）	バランススコアカード（BSC）、PDCAサイクル
第3回	経営戦略（2）	全社企業システム体系（EA）、全社業務資源管理（ERP）、サプライチェーンマネジメント（SCM）
第4回	経営戦略（3）	ビジネスインテリジェンス（BI）、データベース（DB）、データウェアハウス（DWH）、データマート、多次元分析
第5回	経営戦略（4）	データマイニング、テキストマイニング
第6回	経営戦略（5）	営業支援システム（SFA）、顧客関係管理（CRM）、RFM分析
第7回	インターネットの発展とビジネス（1）	情報社会の現状とインターネット
第8回	インターネットの発展とビジネス（2）	eビジネスの基本、類型化（B to B、B to C、O to O など）
第9回	eビジネスの新潮流の要因（1）	モバイル&スマート、クラウドコンピューティング

第10回	eビジネスの新潮流の要因（2）	ソーシャルメディア、ビッグデータ、I o T
第11回	eビジネスの新潮流の要因（3）	情報セキュリティ
第12回	インターネットとマーケティング	インターネットによるマーケティング
第13回	eビジネスの新領域への拡がり	労働のeビジネス化、教育のeビジネス化
第14回	eビジネスの将来	eビジネスの可能性と課題
第15回	総括	第1回から第14回の振り返り、確認試験とその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B1B1023801	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	情報ビジネス論（Business Intelligence）		
⑥ 担当教員（英語表記）	高橋 和子（Kazuko Takahashi）	履修開始学年	3 ⑤ 単位数 2
開講学期	2019年度 後期	開講曜日	金曜3限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	加速する情報社会にあって、企業意思決定を高度し迅速化するためには、誰もが情報を有効に利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織に関する基本的な知識を取得することで、企業への就職に役立つビジネスの動向と特徴を理解し、地域社会の発展に貢献できる力を養うことです。到達目標は、ICTをさまざまに活用したいわば「生きた経営学（e経営学）」の基本的な知識を身につけることです（DP・CP）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は「情報概論」を履修していることが望ましい。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。小テストは実施後に正解を示し、解説を行うことでフィードバックします。また、随時、課題を出しますが、次の授業で解説を行ってフィードバックします。
アクティブ・ラーニングの手法	双方向型演習：毎回、授業の途中で小さな問題を3～5問程度課します。学生同士、相互に相談してよい。ほとんどの学生が解答を終えた時点で、正解を示し、その解説を行います。間違っていた場合は訂正を行って、授業終了後に提出して下さい。これにより、新しく得られた知識や考え方を確かなものにすることができます。
⑦ 成績評価方法と割合	授業内小テスト（毎回）40% 課題10% 確認試験50%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	EAやeビジネスについての概要が説明でき、労働のeビジネス化、教育のeビジネス化についても説明できる。
優（A）	EAについての概要が説明でき、eビジネスについての概要が説明できる。
良（B）	BIを含めたEA（全社企業システム体系）の各要素（BSC、ERP、SCM等）について説明できる。
可（C）	BI（ビジネスインテリジェンス）の各要素（DB、DWH、DM、データマイニング、テキストマイニング等）について説明できる。
不可	BIの概要が説明できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：テキストを事前に読んでおくこと（90分）。日頃から企業のIT活用に関するニュースに注意してください（30分）。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解をし、その日のうちに復習を行って、用語と概念を定着させて下さい（60分）。
教科書、ISBN	『eビジネス&マーケティングの教科書 情報化社会におけるビジネスの捉え方 第二版』 大嶋淳俊著 学文社 2016年
参考文献	適宜、プリントを配布します。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	経営と情報活用	情報社会の現状と企業経営の変化、情報システムの重要性（POSシステムなど）
第2回	経営戦略（1）	バランススコアカード（BSC）、PDCAサイクル
第3回	経営戦略（2）	全社企業システム体系（EA）、全社業務資源管理（ERP）、サプライチェーンマネジメント（SCM）
第4回	経営戦略（3）	ビジネスインテリジェンス（BI）、データベース（DB）、データウェアハウス（DWH）、データマート、多次元分析
第5回	経営戦略（4）	データマイニング、テキストマイニング
第6回	経営戦略（5）	営業支援システム（SFA）、顧客関係管理（CRM）、RFM分析
第7回	インターネットの発展とビジネス（1）	情報社会の現状とインターネット
第8回	インターネットの発展とビジネス（2）	eビジネスの基本、類型化（B to B、B to C、O to Oなど）
第9回	eビジネスの新潮流の要因（1）	モバイル&スマート、クラウドコンピューティング

第10回	eビジネスの新潮流の要因（2）	ソーシャルメディア、ビッグデータ、I o T
第11回	eビジネスの新潮流の要因（3）	情報セキュリティ
第12回	インターネットとマーケティング	インターネットによるマーケティング
第13回	eビジネスの新領域への拡がり	労働のeビジネス化、教育のeビジネス化
第14回	eビジネスの将来	eビジネスの可能性と課題
第15回	総括	第1回から第14回の振り返り、確認試験とその解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2016501	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	ビジネスデータ解析（旧Excelデータ解析）		
⑥ 担当教員（英語表記）	森島 隆晴（Takaharu Morishima）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	水曜2限

- ① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ
 情報社会では、日常生活がビッグデータとして収集・蓄積され、ビジネスで使われるようになっています。授業のねらいは、ビジネスデータの意味とExcelを用いた分析方法を学ぶことで、データ処理のための一般教養を身に付けることです。到達目標は、データを目的に合わせ処理、適した表現方法でグラフ化、分析結果を説明できることです。
- ② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）
 履修条件は、Excelの数式・関数を用いた操作ができることです。人数制限があるため履修希望者は必ず第1回目から出席してください。毎回、課題説明と課題実施のためのディスカッションを行い、課題を提出してもらいます。出された課題は、次回の初めにフィードバックと解説を行います。課題に関するディスカッションを通じて、学生間でもフィードバックし合ってもらいます。
- アクティブ・ラーニングの手法
 毎回の課題を解決するために、調べ学習やディスカッションを行い、課題のデータ解析や解釈をグループワークで行います。
- ⑦ 成績評価方法と割合
 毎回の提出課題(60%)と15回目の実技試験(40%)で評価します。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	目的に合わせてデータ処理を行い、必要な情報を読み取り解釈できる。
優（A）	目的に合わせてデータ処理を行い、必要な情報を読み取ることができる。
良（B）	Excelを用いたデータ処理ができ、かつ、処理の目的や意義を説明できる。
可（C）	Excelを用いたデータ処理ができる。
不可	Excelを用いたデータ処理ができない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	毎回、授業内容の資料をよく読み(20分以上)、用語や操作方法(30分以上)について予習してください。また、その回でやった操作方法是次回以降も使いますので、限られた時間内に作業が完了できるように何度も手順を確認し(90分以上)、作業内容の意味付け(40分以上)を行ってください。
教科書、ISBN	教科書は使いません。資料とデータを配布します。
参考文献	恩蔵直人・富田健司(2011)『1からのマーケティング分析』碩学社 末吉正成・末吉美喜(2009)『Excelビジネス統計分析』翔泳社

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	マーケティングのデータ解析1	受講者の確認、講義の概要、ヒット商品を特定する
第2回	マーケティングのデータ解析2	商品特性を把握し、顧客の重要度を把握する
第3回	統計解析の基礎1	平均値、中央値、最頻値、分散など基本統計量の意味
第4回	統計解析の基礎2	基本統計量とヒストグラムでデータの特徴をつかむ
第5回	相関分析	30代男性と栄養ドリンク売上数の関係を相関分析する
第6回	単回帰分析1	30代男性と栄養ドリンク売上数の関係を回帰分析する
第7回	単回帰分析2	最高気温とアイスコーヒーの注文数の関係を分析する
第8回	重回帰分析1	店舗の売り上げに影響する要因を探す
第9回	重回帰分析2	駅から距離が遠いほどマンション価格は高いのかを調べる
第10回	コンジョイント分析	ヒットするコンビニ弁当は何かを分析する
第11回	カ二乗検定	統計分析の結果に意味があるか否かを調べる
第12回	t検定とF検定	分析結果は偶然か何か意味があるのかを調べる
第13回	t検定とF検定2	エリアごとの業績評価に違いはあるかを調べる
第14回	ふり返り	各回授業内容のふり返りと試験方法の確認
第15回	総括	実技試験と解説

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	

科目	
施行規則に定める科目 区分又は事項等	

授業番号	A3B1052801	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	社会調査法Ⅰ（Social SurveyⅠ）		
⑥ 担当教員（英語表記）	吉岡 洋介（Yosuke Yoshioka）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	火曜3限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	現代社会のさまざまな社会調査を紹介し、学術的な社会調査とその他の調査の違いを学生が理解することを目標とする。また、学術的な社会調査のなかでも多様な方法があることを学び、学生が自分の専門性を高めていくなかで発見した問題に適した調査方法を選択できるようになることが授業のねらいである（DP・CP3）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	毎回ではありませんが、授業のはじめに前回提出してもらったワークシートの内容を紹介します。質問があれば答えるフィードバックの時間を設けます。Power Point を用いた講義を行います。講義の最後に復習のポイントをアナウンスします。 この科目は、社会調査協会の社会調査士認定のための科目（A科目）に該当します。またこの科目の単位取得が、3年次以降の「社会調査実習（G科目）」の履修要件にもなる予定です。社会調査士資格取得希望者、「社会調査実習」受講希望者は必ず履修してください。
アクティブ・ラーニングの手法	毎回教員との議論時間を設ける。 PC実習もとりいれ、調べたことを発表する。
⑦ 成績評価方法と割合	小課題やワークシートによる平常点（30%）、確認試験（70%）

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいを越えて、自ら探究し理解を深めるレベルに達している。
優（A）	授業のねらいがほぼ達成できている。
良（B）	授業のねらいと到達目標の間のレベルに達している。
可（C）	到達目標に達している。
不可	到達目標を達成できていない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	小課題を含めた予習（90分以上）、講義の最後でアナウンスしたポイントを中心とした復習（90分以上）を怠ることなく授業に臨んでください。
教科書、ISBN	教科書は使いません。代わりに資料を配布します。
参考文献	轟亮・杉野勇、『入門・社会調査法〔第3版〕』法律文化社.2017. 大谷信介ほか、『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法―』ミネルヴァ書房.2013.

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	社会調査とは何か	身近にある「調査」という言葉を紹介し、それらと「社会調査」の違いを説明する。リサーチリテラシーについても説明する。
第2回	社会調査の歴史、社会調査の意義	古代から近代までの社会調査の歴史を紹介し、市民が調査を行うことの意義を考える。
第3回	さまざまな社会調査：市場調査	市場調査として視聴率調査を紹介し、調査方法や調査結果の読み取り方を説明する。
第4回	さまざまな社会調査：世論調査（1）	マスメディアの世論調査を取り上げ、サンプリング方法の発展の歴史とともに紹介する。
第5回	さまざまな社会調査：世論調査（2）	現代の世論調査を紹介し、調査方法や調査結果の読み取り方を説明する。
第6回	さまざまな社会調査：公的統計	国勢調査をはじめとする公的統計を紹介する。調査方法や調査結果の読み取り方を説明する。
第7回	学術調査	学術的な社会調査を、目的、方法により種類分けし、その多様性を説明する。
第8回	調査倫理	学問全般の倫理、社会調査固有の倫理を説明する。
第9回	質的調査（1）	聞き取り調査について、実際の研究事例をもとに紹介する。
第10回	質的調査（2）	参与観察について、実際の研究事例をもとに紹介する。
第11回	質的調査（3）	ドキュメント分析について、実際の研究事例をもとに紹介する。
第12回	量的調査	量的調査と質的調査の違いについて説明する。統計学の基礎用語にも言及する。

		及する。
第13回	社会調査のプロセス	講師の経験も紹介しながら、量的調査（調査票調査）のプロセスを概観する。
第14回	複数の調査の組み合わせ	繰り返し調査、比較調査、パネル調査の研究事例を紹介し、量的調査研究の最前線に触れる。
第15回	試験と解説	確認試験（45分を予定）を行いその後、解説を行う。

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	A3B1052901	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	社会調査法Ⅱ（Social SurveyⅡ）		
⑥ 担当教員（英語表記）	吉岡 洋介（Yosuke Yoshioka）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	火曜3限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	因果関係の考え方を紹介し、因果関係を解明する方法として社会調査があることを学生が理解することを目標とする。またそのような経験科学としての社会調査に必要な、仮説の構築、調査票の作成、サンプリング、調査資料の管理についての知識を学生が体得し、自分で専門的な社会調査が実施できるようになることがこの授業のねらいである（DP・CP3）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	毎回ではありませんが、授業のはじめに前回提出してもらったワークシートの内容を紹介します。質問があれば答えるフィードバックの時間を設けます。Power Point を用いた講義を行います。講義の最後に復習のポイントをアナウンスします。 この科目は、社会調査協会の社会調査士認定のための科目（B科目）に該当します。またこの科目の単位取得が、3年次以降の「社会調査実習（G科目）」の履修要件にもなる予定です。社会調査士資格取得希望者、「社会調査実習」受講希望者は必ず履修してください。
アクティブ・ラーニングの手法	毎回教員との議論時間を設ける。
⑦ 成績評価方法と割合	小課題やワークシートによる平常点（30%）、確認試験（70%）

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいを越えて、自ら探究し理解を深めるレベルに達している。
優（A）	授業のねらいがほぼ達成できている。
良（B）	授業のねらいと到達目標の間のレベルに達している。
可（C）	到達目標を達している。
不可	到達目標を達成できていない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	小課題を含めた予習（90分以上）、講義の最後でアナウンスしたポイントを中心とした復習（90分以上）を怠ることなく授業に臨んでください。
教科書、ISBN	教科書は使いません。代わりに資料を配布します。
参考文献	高根正昭、『創造の方法学』講談社.1979. 轟亮・杉野勇、『入門・社会調査法〔第3版〕』法律文化社.2017.

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	リサーチクエストと調査企画・設計	問いの種類と調査の設計について説明する。
第2回	因果関係とは何か	因果関係が成立する条件について説明する。
第3回	経験科学と概念	経験科学における概念について説明する。
第4回	理論仮説と操作仮説	理論仮説と操作仮説について説明する。
第5回	実験と社会調査	因果関係の解明における実験と調査の違いを説明する。
第6回	データ収集の方法と選択	調査票調査のデータの収集方法について説明する。
第7回	インターネット調査の普及	近年普及しているインターネット調査の普及について問題点も含めて説明する。
第8回	質問文のワーディング	調査票の質問文のワーディングについて説明する。
第9回	質問文の配置と世論調査	質問文の適切な配置について説明し、世論調査の読み取り方について解説する。
第10回	全数調査と標本調査／有意抽出標本と無作為抽出標本	サンプリングについて、全数調査と標本調査、有意抽出標本と無作為抽出標本について説明する。
第11回	無作為抽出と標本誤差	無作為抽出標本によってできることを視覚的に理解する。
第12回	無作為抽出の方法	実際の無作為抽出の方法について解説する。
第13回	エディティングとコーディング	データの整理について解説する。
第14回	フィールドノートの作成／調査資	フィールドノートの作成と、調査で得られたデータの適切な管理について

	料の管理	て解説する。
第15回	試験と解説	確認試験（45分を予定）を行い、その後に解説を行う。

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2035101	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	フィールドワーク入門（Introduction of Fieldwork）		
⑥ 担当教員（英語表記）	経済教務委員会（Keizai Kyoumu）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	火曜4限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	この授業では、地域社会の経済状況や政策を調査するために必要となる基礎知識を学び、今後の2年～4年次のゼミにおける調査・研究のスキルを身につけることをねらいとしている。この授業の到達目標は、以下の3つである。①身近な地域の課題に関心をもつこと（DP4）。②アンケート調査の作成・実施を通して、地域課題を分析し思考する姿勢をもつこと（DP3）。③グループによって、アンケート調査や分析、レポート作成などを実施することで、協働して作業を行える表現力・コミュニケーション能力を伸ばす必要性を理解すること（DP2）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	授業の前半は、座学を通して、地域の課題や統計資料の扱い方、政策の意義、社会調査の方法を学ぶ。座学では、学内外のゲストスピーカー（千葉市稲毛区職員など）による授業があるので、静穏な授業環境を保持すること。授業の後半は、各ゼミの担当教員の指導のもとで、ゼミごとにアンケート調査を通じた地域調査を実施する。ゼミごとに作成したアンケート調査は、ゼミごとに分析してレポートを作成する。レポート作成の指導は、各ゼミの教員が行い、その結果を評価する。 なお、アンケートの対象は経済学科の2年生である。自分たちがアンケートを作成すると同時に、他のゼミのアンケートには必ず回答してもらう。
アクティブ・ラーニングの手法	・グループワークによるアンケートとレポートの作成、それに関する教員の添削指導を通じた双方型演習 ・地域課題の解決に向けたPBL（課題解決型学習）
⑦ 成績評価方法と割合	ゼミごとに行うグループワークを通じて作成されたレポートで評価する（100％）。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	授業のねらいを理解し、十分に到達目標に達している。さらに、ゼミ活動においては、レポートの質を高めるような積極的な役割を担った。
優（A）	授業のねらいを理解し、十分に到達目標に達している。さらに、ゼミ活動においては、レポート作成に積極的に関わった。
良（B）	授業のねらいを理解し、おおむね到達目標に達している。さらに、ゼミ活動においては、レポート作成に関わった。
可（C）	授業のねらいを理解し、おおむね到達目標に達している。さらに、ゼミ活動においては、レポート作成に何らかの貢献が認められる。
不可	授業のねらいを理解せず、到達目標に達していない。そのため、レポート作成への貢献が認められない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：地域関連の文献を読んだり、地域の現状を広報誌やホームページ等で調べる（90分以上）。 復習：毎回の授業をふまえ、アンケートの作成、実地調査、アンケートのト集計、レポートの執筆といった活動に取り組む（150分以上）。
教科書、ISBN	特定のものは使用しない。毎回の授業で担当者が資料を配布することがある。
参考文献	・授業の担当者やゼミの担当教員が指示することもある。

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	フィールドワークとは	フィールドワークは何をするのか、なぜ必要なのかを学ぶ。あわせて、この授業の進め方、評価方法についても説明する。
第2回	敬愛大学の地域連携活動	敬愛大学地域連携センターの取り組み、学生の地域活動の紹介
第3回	千葉市稲毛区役所の地域活性化活動	本学の地元である稲毛区役所が、どのように地域振興の活動を実施しえちるのかを、自治体職員の方から紹介していただく。
第4回	統計資料の政策への活用	経済政策や地域政策に関わる統計資料を知り、その活用について学ぶ。
第5回	統計資料とは①	統計数字の読み方や、調査・分析に用いる際の使い方や注意点を学ぶ。
第6回	統計資料とは②	地域の課題を把握するためには、どのような統計資料があるのかを知る。
第7回	調査法の紹介	聞き取り調査など、その実態を紹介する。
第8回	ゼミ活動の事前指導	ゼミごとに実施するアンケート調査や、その後の分析、レポート作成などの活動についての諸注意を与える。

第9回	グループワーク①	調査テーマの設定
第10回	グループワーク②	アンケート作成・配信準備
第11回	グループワーク③	アンケート作成・配信準備
第12回	グループワーク④	アンケート調査の分析
第13回	グループワーク⑤	レポート作成
第14回	グループワーク⑥	レポートに対するゼミ教員からの指導
第15回	まとめ	実施した調査や分析、そして執筆したレポートについての成果と反省点をふりかえる。

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B2B2036001	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	実地調査入門（Introduction to Fieldwork）		
⑥ 担当教員（英語表記）	森島 隆晴（Takaharu Morishima）	履修開始学年	2 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	火曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	2年～4年次の演習科目で、様々なビジネスを実地調査する上で必要となる基礎的な知識と技能の習得が授業のねらいです。広告宣伝のためのパンフレット作成をグループワークで行なうことで、社会調査法やデータの取り扱いおよび判断力・実践力が必要な協働を経験することが到達目標です。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	前半は講義を中心に、後半はPBL型グループワークを中心に行います。前半では、講義内容の知識定着度のWeb上の確認テストと要約作成およびグループ課題を毎回で行ってもらいます。後半は作業経過を毎回報告してもらいつつ、広告宣伝用パンフレットを作成してもらいます。作成したパンフレットをポスターセッション形式で中間報告と最終報告の2度報告してもらいます。後半のPBL型グループワークでは、提案やそのフィードバックなどの意見交換を積極的に行ってください。
アクティブ・ラーニングの手法	PBL型グループワークを行います。前半では毎回異なる課題を通じてグループワークによる課題解決を体験してもらいます。後半は、各グループで課題設定して、広告宣伝用パンフレット作製を行います。成果報告はポスターセッション形式による発表をもらいます。
⑦ 成績評価方法と割合	前半毎回の確認テスト(基礎知識)と要約で30%、後半の作業報告(判断力・実践力・協働力)で20%、成果物としてのパンフレットおよびプレゼン資料(協働力・表現力・やり抜く力)で50%の割合で評価します。

《評価基準》	
評価	判定基準
秀 (S)	手段方法を理解し、実地調査を主導的に協働してパンフレットを作製できる。
優 (A)	手段方法を理解し、実地調査の役割分担に責任をもって協働し、パンフレットを作製できる。
良 (B)	実地調査の役割分担に責任をもって協働し、パンフレットを作製できる。
可 (C)	実地調査に基づくパンフレットを作製できる。
不可	実地調査に基づくパンフレットを作製できない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	前半は、毎回教科書の該当箇所を事前に複数回読み(50分以上)、不明な用語などを確認(40分以上)して授業に臨み、用語の確認や授業内容の整理(90分以上)を行ってください。後半は、課題の相談や調査の実施、報告書の作成などをグループ単位で(合計32時間以上)行ってください。
教科書、ISBN	慶應義塾大学教養研究センター監修『アカデミックスキルズ 実地調査入門 – 社会調査の第一歩』慶應義塾大学出版会
参考文献	なし

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	実地調査とは	授業概要と評価方法、調査から発表までの流れ
第2回	調査方法とデータの種類	観察調査、聞き取り調査、アンケート調査の概要
第3回	調査の計画立案と準備①	観察調査と聞き取り調査の方法と注意点
第4回	調査の計画立案と準備②	アンケート調査の方法と注意点
第5回	データの分析	データの種類と取り扱い、データ分析手法
第6回	データの可視化	グラフの種類と見せ方
第7回	成果報告の手順	パワーポイントを用いた発表報告の方法
第8回	実地調査の課題	グループ分けと調査課題の決定
第9回	実地調査の調査方法	調査方法とスケジュールの決定
第10回	実地調査	実地調査の準備と実施
第11回	データ分析とパンフ作成	調査データの分析とパンフレット第1案の作成
第12回	中間報告(火曜5限にコミュラボで実施)	パンフレット第1案のコンセプト・内容の発表
第13回	課題・改善点の検討	中間報告での評価から課題・改善点を検討
第14回	調査とデータの分析・検討	追加調査やデータ分析で、パンフレット最終案の作成
第15回	最終報告(火曜5限にコミュラボで)	パンフレット最終案のコンセプト・内容の発表

		(実施)			
《教職に関する情報》					
免許状取得のための科目区分（必修/選択）				担当形態	
科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等					

授業番号	A3B1053801	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	社会調査実習Ⅰ		
⑥ 担当教員（英語表記）	吉岡 洋介（Yosuke Yoshioka）	履修開始学年	3 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 前期	開講曜日	金曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	「社会調査実習Ⅰ」と「社会調査実習Ⅱ」の両方を履修することで、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を実習を通じて体験的に学習します。 「社会調査実習Ⅰ」の授業のねらいと到達目標は、社会調査の一連の過程を理解し、その前半部分（調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文、対象者の選定、調査の実施、収集されたデータの点検）まで行えるようになることです（DP・CP3）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は、「社会調査法Ⅰ」と「社会調査法Ⅱ」（少なくとも社会調査の設計と実施方法に関する「社会調査法Ⅱ」）をすでに単位取得済みであることとする。また適正人数を超えた場合は、履修条件をもとに人数調整をすることがある。この授業では、データ収集のために授業時間以外にも調査活動を行うことがある。 この科目は、後期の「社会調査実習Ⅱ」とあわせて、社会調査協会の社会調査士資格認定科目（G科目）に該当する。
アクティブ・ラーニングの手法	ディスカッション：調査票作成時に、まずゼミ生各自の関心あるテーマを発表し、類似したテーマをもつ学生同士でグループを作って質問文と選択肢を議論し決定します。その後、適切な分量かつストーリー性のある調査票を完成するために、各グループごとの発表内容についてゼミ生全員で検討します。
⑦ 成績評価方法と割合	社会調査の一連の過程に対する理解度25% 調査票作成・調査票点検を含めた授業への貢献度25% 調査実習50%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	調査票作成に積極的に関与し、調査実習の担当責任を果たすことができる。さらに、調査票の点検を行って、データ入力に向けた準備（非該当と無回答の区別）ができる。
優（A）	調査票作成に積極的に関与し、調査実習の担当責任を果たすことができる。さらに、調査票の点検ができる。
良（B）	調査票作成に積極的に関与し、調査実習の担当責任を果たすことができる。
可（C）	調査票作成と調査実習の基本が理解できている。
不可	調査票作成と調査実習の基本ができていない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：指定する資料、図書を事前に読み、用語を理解しておくこと（90分）。また、調査票作成中は、質問文や選択肢について、調査対象者が納得できるような説明を考えておくこと。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解するように努め、必ずその日のうちに復習して、用語とその意味を定着させるようにしてください（90分）。
教科書、ISBN	資料を配布する。
参考文献	『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ・第3版』 轟亮・杉野勇編 法律文化社 2017

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	オリエンテーション	「社会調査実習Ⅰ」と「社会調査実習Ⅱ」の学習内容、授業の進め方、調査実習の目的と心構えなど
第2回	社会調査とは何か（1）	社会調査からわかること、社会調査の種類
第3回	社会調査とは何か（2）	社会調査の方法
第4回	社会調査とは何か（3）	調査対象者の選定、仮説構成
第5回	社会調査とは何か（4）	調査票の作成方法
第6回	先行研究のレビュー	先行研究のレビューと問題設定
第7回	調査の企画(1)	各自の問題関心発表と全体テーマの設定
第8回	調査の企画(2)	調査対象者の選定、調査時期、作業分担など手続きの決定
第9回	調査の企画(3)	調査項目の設定、質問文と回答の作成
第10回	調査の企画(4)	調査票の作成と精査
第11回	調査の準備	調査依頼にあたってのインストラクション、調査票袋詰めなど
第12回	調査の実習	調査票の配布と回収（授業時以外の時間帯）、調査実習時の問題点と解決

第13回	調査データの整理（1）	調査票の点検
第14回	調査データの整理（2）	データ入力へ向けた準備（非該当、無回答のコード決定）
第15回	社会調査実習の反省とまとめ	社会調査実習の反省とまとめ

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業番号	B1B1053901	キャンパス	稲毛キャンパス
科目名（英語表記）	社会調査実習 II		
⑥ 担当教員（英語表記）	吉岡 洋介（Yosuke Yoshioka）	履修開始学年	3 ⑤ 単位数 2
開講学期	2020年度 後期	開講曜日	金曜5限

① 授業のねらい・到達目標・実務経験と授業の関連性・DP,CPに於ける位置づけ	「社会調査実習I」と「社会調査実習II」の両方を履修することで、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を実習を通じて体験的に学習します。 「社会調査実習 II」の授業のねらいと到達目標は、社会調査の一連の過程の前半部分を習得した上で、後半部分（データ入力、社会科学統計パッケージソフト（SPSS）による単純集計とクロス集計）を行えるようになることです（DP・CP3）。
② 授業の進め方（履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め）	履修条件は、前期の「社会調査実習 I」を単位取得していること。 前期に実施した調査票調査のデータ入力、データ分析、結果の報告（プレゼンテーションと報告書論文の執筆）についてのPCを用いた実習を主として行う。 この科目は、前期の「社会調査実習 I」とあわせて社会調査協会の社会調査士資格認定科目（G科目）に該当する。
アクティブ・ラーニングの手法	プレゼンテーション：調査データの分析（単純集計、クロス集計）結果について、パワーポイントを仕様した発表を行い、他のゼミ生による質疑・応答を行います。
⑦ 成績評価方法と割合	調査データの分析手法の理解度30% 分析結果の発表と質疑・応答30% 報告書論文40%

《評価基準》	
評価	判定基準
秀（S）	調査データの入力作業およびSPSSによる基本的なデータ分析（単純集計、クロス集計）の結果を正しく解釈できる。さらに、その結果をプレゼンテーションできちんと発表できる。
優（A）	調査データの入力作業およびSPSSによる基本的なデータ分析（単純集計、クロス集計）の結果を正しく解釈できる。
良（B）	調査データの入力作業およびSPSSによる基本的なデータ分析（単純集計、クロス集計）が行える。
可（C）	調査データの入力作業およびSPSSによる基本的なデータ分析（単純集計）が行える。
不可	調査データの入力作業およびSPSSによる基本的なデータ分析（単純集計）が行えない。

授業の予習・復習（1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め）	予習：指定する資料、図書を事前に読み、用語を理解しておくこと（90分）。 復習：統計に関する専門用語が多いので、授業中によく理解するように努め、必ずその日のうちに復習して、用語とその意味の理解を定着させるようにしてください。また、授業中に予定した作業が完了しない場合は、授業外の時間を使って行って下さい（90分）。
教科書、ISBN	資料を配布する
参考文献	『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ・第3版』 轟亮・杉野勇編 法律文化社 2017

④ 回数	授業項目	③ 授業内容
第1回	オリエンテーション	社会調査の全課程の復習、後期授業の進め方など
第2回	調査データ入力（1）	EXCELによるデータ入力作業
第3回	調査データ入力（2）	EXCELによるデータ入力作業（続き）
第4回	調査データ入力（3）	入力データのマージ、入力データと調査票の照合と訂正
第5回	調査データ入力（4）	EXCELデータをSPSSデータに変換
第6回	データ分析（1）	SPSSによる単純集計処理
第7回	データ分析（2）	単純集計結果の解釈
第8回	データ分析（3）	SPSSによる属性とのクロス集計処理
第9回	データ分析（4）	χ ² 検定
第10回	データ分析（5）	属性とのクロス集計結果の解釈
第11回	報告書の作成に向けて	定型（「はじめに」「データと分析方法」「結果と考察」「おわりに」）の記述内容
第12回	プレゼンテーションの準備（1）	パワーポイントにより、「はじめに」「データと分析方法」部分を作成
第13回	プレゼンテーションの準備（2）	パワーポイントにより、「結果」部分を作成

第14回	プレゼンテーション（1）	各自が作成した内容を発表し、質疑・応答を行う（1回目）
第15回	プレゼンテーション（2）	各自が作成した内容を発表し、質疑・応答を行う（2回目）

《教職に関する情報》			
免許状取得のための科目区分（必修/選択）		担当形態	
科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			